

滋賀県議会議員

Kunori Manabu Report

九里学レポート

令和8年
立秋号
VOL.65

くらしのご相談やご意見など
ございましたらお気軽に

くのり学事務所へ

TEL077-558-1809/FAX077-558-0665

FB・インスタグラム
日々更新中



kunori-try.jp
ホームページ

(事務所・自宅) 〒520-3001 滋賀県栗東市東坂409-3 ☎81313@kunori-try.jp <発行責任者/九里 学・編集責任者/米津 進>

みてネ!!



暮らしやすさを
実感できる滋賀へ
暮らしを守り、未来を創る

地道に!!

頑張ろう

※考動…考えて動くことの造語

熊本地震や千葉豪雨により犠牲となられた方々に深く
哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心より
お見舞い申し上げます。

被災地の一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。
災害から命と暮らしを守るため、自然災害の教訓を滋賀県
や栗東市の防災・減災にどう生かすか。改めて『災害に強い
まちづくり』の信念を胸に刻み考動していきます。

令和8年 秋の気配が感じられる頃

完全無所属
滋賀県議会議員 九里 学



(現職 (ボランティア等))

- ・観光文スポ・県土・交通常任委員会委員
- ・琵琶湖・森林・防災対策特別委員会委員
- ・滋賀県ラグビーフットボール協会副会長
- ・滋賀県スポーツ振興議員連盟副代表
- ・滋賀県障害児者と父母の会連合会特別会員
- ・滋賀県難病対策・がん対策推進議員連盟会員
- ・栗東柔道スポーツ少年団育成会名誉会長
- ・栗東市卓球協会会長
- ・栗東都市整備株式会社相談役

九里学レポート

令和8年
4月～8月

写真

市民派として



打楽器奏者故中谷満先生を偲んで弔辞を述べる (さきら)



栗東市卓球協会長として県体応援へ (野洲市)



2026年「近畿インターハイ」開会式 (草津市・滋賀ダイハツアリーナ)



馬運車のスタッフと共に労働談義をする (栗東市内)



娘と各地を歩き、要望を聴く (栗東市内)



娘と各地を歩き、要望を聴く (栗東市内)



県ラグビー協会仲間等と共に汗を (野洲川運動公園)



地元山科精器スキーオリンピック 藤木日菜選手と (東坂)



猛暑の中で草刈りに汗を (金勝地区)



熊本地震復興基金活動を行なう (JR 栗東駅)



20年駅立ち、辻立ちを続けて県民市民の20年の声を聴く (栗東市内各地)

感謝

これまで19年間で52回の質問をしました。(代表質問5回・一般質問47回)

2007年～2012年

県土・環境・地域の
基盤づくり

- ・新幹線新駅中止後の地域活性化
- ・道路・河川整備
- ・RD問題
- ・学校施設
- ・芸術文化・スポーツ
- ・ドクターヘリ

2013年～2018年

子育て・教育・福祉・
地域づくり

- ・生活保護
- ・障がい児支援
- ・学童保育 (放課後児童クラブ)
- ・防災・減災・農政・観光・交通

2019年～2022年

暮らしを守る・
コロナ対応

- ・幼児教育・保育無償化
- ・コロナ対応
- ・子ども政策
- ・自殺対策
- ・医療提供体制
- ・バス・タクシー公共交通の充実

2023年～2026年

未来へつなぐ
質問の具現化

- ・子ども政策
- ・農業米政策
- ・高等専門学校
- ・病児・病後児保育
- ・国スポ・障スポ・中小企業支援
- ・子どもの貧困・防災・減災
- ・こども誰でも通園制度
- ・教育環境
- ・オーガニック農業
- ・公共交通
- ・地籍調査
- ・産業・工場誘致

中長期的スパンで系統立てた質問を心がけてきました。

一般質問

47回
99項目

県民の声を県政へ

代表質問

5回
52テーマ

県政全体を問う

所属委員会等
のべ

27委員会

県政の様々な分野で活動

委員長・副委員長歴
のべ

7回

議会運営・政策立案に貢献

関西広域連合議会議員
のべ

2回 滋賀代表

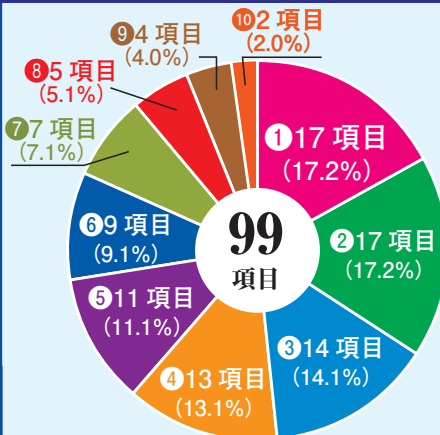
広域行政の推進に貢献

議員在任期間

19年5カ月

2007～2026年

一般質問47回・99項目の分野別内訳 (2007.04～2026.08)



- ①教育 13項目 (13.1%)**
 - ・学校教育の充実、特別支援教育の推進
 - ・いじめ・不登校対策、教員の働き方改革
 - ・体育施設整備、ICT教育、大学・高専連携など
- ②環境・自然 17項目 (17.2%)**
 - ・琵琶湖の保全、湖岸整備、外来魚対策
 - ・廃棄物対策、脱炭素・再エネ推進
 - ・森林保全・林業振興、グリーンインフラなど
- ③まちづくり・インフラ 14項目 (14.1%)**
 - ・道路整備・維持、渋滞対策、公共交通
 - ・都市計画、駅周辺整備、歩道、自転車道
 - ・橋りょう整備、上下水道、空き家対策など
- ④子育て・福祉 17項目 (17.2%)**
 - ・病児・病後児保育・こどもの貧困対策
 - ・こども誰でも通園制度、子育て支援の充実
 - ・ひとり親家庭支援、保育人材確保など
- ⑤産業・農業・地域経済 7項目 (7.1%)**
 - ・オーガニック農業、米価対策、農業振興
 - ・中小企業支援、企業誘致、働き方支援
 - ・商工業・地場産業の活性化など
- ⑥文化・スポーツ・観光 11項目 (11.1%)**
 - ・国スポ・障スポ・文化財保護・活用
 - ・観光振興・地域文化・歴史の継承
 - ・スポーツ施設整備、MICE誘致など
- ⑦行財政・地域社会 9項目 (9.1%)**
 - ・行財政改革、県民サービス向上
 - ・地域連携 (関西広域連合など)
 - ・議会改革、情報公開・透明性の確保など
- ⑧医療・健康 5項目 (5.1%)**
 - ・地域医療の充実、ドクターヘリの運航・拡充
 - ・救急医療体制、医師確保・医療人材育成
 - ・健康づくり・がん対策、コロナ感染症対策など
- ⑨防災・安全 4項目 (4.0%)**
 - ・防災・減災対策、河川・治水対策
 - ・災害時の避難体制・備蓄強化
 - ・交通安全・防犯対策、消防・救助体制など
- ⑩その他 2項目 (2.0%)**

- ①滋賀県13市6町でなぜふるさと納税寄付額に差が出るのか(栗東は18位)原因と対策を質す。
②栗東市『こんぜ天馬の森(旧県民の森)』をシガパークの仲間に入れる様要望する。



【以下 Q は九里質問 A は県側答弁】
【一部抜粋】

ふるさと納税について

Q…県としてこれまでどんな戦略をもって広報活動を行ってきたのか伺います。

A…ふるさと納税についてお答えいたします。
まず、1点目の受け入れ拡大に向けた広報についてですが、令和5年度(2023年度)に、ふるさと納税を含めた歳入確保の全庁の索引役として、総務部行政経営推進課内に営業戦略係を設置し、取組を推進しています。

具体的には、50を超える広報媒体の情報掲載や、ふるさと納税ポータルサイトへの特集ページ掲載のほか、「ここ滋賀」と連携した首都圏での広報PRなどにより、ふるさと納税の受け入れ拡大を図っています。
また、話題性のある滋賀県らしい返礼品の充実にも取り組んでおり、新たに追加したびわ湖マラソン出走権やフェスティナズマのチケットは、注目度も高く、高評価をいただいています。
さらに、寄附をいただいた方に対し、寄附の使い道をお知らせするなど、リピーターの確保に努めています。

Q…クラウドファンディング型ふるさと納税の活用実績を伺います。

A…2点目の「クラウドファンディング型ふるさと納税」の活用実績についてですが、クラウドファンディングは、単なる財源確保だけでなく、寄附を募るプロセスにおいて関心や共感を高め、ファン獲得につながるという効果もありますことから、本県のふるさと納税の取組においても積極的に活用することとしています。

最近の事例で申し上げますと、「新琵琶湖文化館の収蔵庫整備」に対し、196名の方から約1,944万円。「矢橋帰帆島公園の遊具整備」に対し、150名の方から約165万円などのご寄附をいただいたところです。

また、今年度もこれら事業に加え、『トビタテ!留学JAPANアライアンス事業』などを追加して実施する予定をし、関係部局と連携しながら、事業PRと歳入確保の両面からしっかり取り組み、成果につなげたいと考えております。

Q…滋賀応援寄附の分野別寄附目的内容にどんな工夫を近年されているか伺います。

A…3点目の「寄附目的内容の工夫」についてですが、ふるさと納税を含む滋賀応援寄附は、当初、「琵琶湖の総合保全」と「歴史的文化的資産の保存・活用」という2項目でスタートいたしました。寄附をいただく皆様の多様な想いに応えるため、順次拡大を図り、現在は、子どもやスポーツなど30にわたる寄附目的を設置しているところです。

これらの項目につきましては、毎年度、分野別の受け入れ実績も踏まえながら、見直しを行っており、その際には、琵琶湖など本県の特徴ある取組は残しつつ、県立高専など注力しているプロジェクトなどから選定し、より関心が高まるよう努めているところです。

また、ふるさと納税のPRを行う中で、滋賀応援寄附のメニューもあわせて発信するほか、寄附者がイメージしやすいよう、

例えば、「美しい琵琶湖を守ろう」など、わかりやすい表現にも努めているところです。
Q…受入額向上のための具体的な取組について伺います。

A…4点目の受入額向上のための取組についてですが、現在は、ふるさと納税ポータルサイト運営事業者等からの助言を踏まえた返礼品の開発をはじめ、多くの寄附を集めている自治体の取組事例の調査・研究、また関係職員のスキルやマインド向上に資する専門家を交えた研修などに取り組んでいます。

今後は、こうした取組に加え、例えば、デスティネーションキャンペーンと、返礼品の中で人気の高い「滋賀県で使用できる旅行クーポン」をセットで広報し、話題性や発信力を活かしながら、ふるさと納税の増収にもつなげるなど、より効果的な手法を積極的に検討したいと考えています。

Q…地域資源認定の活用実績(活用市町数・件数)について伺います。

A…5点目の地域資源認定を受けた返礼品の活用状況についてです。

本県では、「近江牛・ふなずし・湖魚の加工品」の三品目を地域資源として認定しています。令和7年10月から現時点における状況は、「近江牛」が18市町で返礼品数1,639件「ふなずし」が1市2町で返礼品数4件、「湖魚の加工品」が2市1町で返礼品数5件となっています。

Q…「地域資源認定制度」が市町村で有効に機能しているか伺います。

A…6点目の「地域資源認定制度」の有効性についてですが、各市町では「地域資源認定制度」による受入額を個別に集計をされていないため、効果額を把握することは困難ですが、令和6年度の県内市町のふるさと納税の受入額は約171億円で、制度導入前の令和2年度と比較して、2倍以上の増加となっています。

加えて、18の市町で制度が活用されている状況でありますとか、市町からは近江牛等を返礼品とすることで市町のPRにもつながるといった前向きな評価もいただいております。「地域資源認定制度」は一定有効に機能していると考えています。

現在も市町を対象とした地域資源認定に関する研修を県が主導で開催し、ブランド価値の維持向上に努めているところですが、今後は議員から御紹介いただきましたような取組も参考にしながら、さらなる連携方策を検討してまいりたいと考えています。

Q…ふるさと納税を積極的に活用した県全体の底上げにつなげるための今後の取組について伺います。

A…ふるさと納税制度は、寄附者の「地域を応援したい」という思いを起点に、関係人口の創出や地域課題の解決につながる有効なツールであり、制度の趣旨を十分理解した上で各自治体が創意工夫して取組を進めることが重要だと思えます。

これまで県では、寄附者に共感の意思を示していただける県の寄附メニューの充実等に取り組ましますとともに、地域資源の認定、市町と連携した返礼品の開発・広報活動など、返礼品として提供する地場産品が豊富でない市町も含め、県全体での取組を進めてきたところです。

今後も、寄附者の思いに応える仕組みづくりも含め、全国の先進事例を共有・研究するなど、市町と一緒に知恵を出し、滋賀県がより多くの共感を得られる地域となるよう、市町とともに取組を進め



てまいりたいと存じます。

『THE シガパークビジョン』のあり方について

Q…ビジョンではどのようなことを定めようとしているのか伺います。

A…『THE シガパークビジョン』についてお答えいたします。

1点目のビジョンで定める内容については、ビジョンではTHE シガパークが「目指す姿」と「基本理念」を定めるとともに、それらの実現に向け、「美しい公園」「優しい公園」「楽しい公園」の3つの視点を基本に各種施策の行動計画を定めております。

2030年までの第1期行動計画では、トイレや駐車場の改善などの「レベルアップ」の取組、地域コミュニティやボランティアとの関係構築などの「タイアップ」の取組、市町の公園との連携や観光振興に寄与するなどの「チームアップ」の取組、これらのロードマップを策定してまいります。

Q…県内の公園の現状をどのように認識し魅力ある公園づくりを進めていくのか伺います。

A…2点目の公園の現状についてですが、議員ご紹介のとおり、本県の都市公園の県民一人当たりの面積は、全国的に見て低い水準である一方、県土に占める自然公園の面積の割合は、全国1位となっており、琵琶湖を中心とした自然豊かな滋賀県の特徴が表れていると認識しています。

そのような中でも、都市公園においては、国スポ・障スポを契機に「彦根総合スポーツ公園」や「草津市立プール」が整備されるなど着実に面積を増やしているところです。

また、琵琶湖を中心とした自然公園では、貴重な植物が生育する伊吹山や、琵琶湖の雄大な景色が楽しめる園地など、滋賀でしか楽しめない公園が数多く存在しています。

これら滋賀の特徴を最大限活用し、琵琶湖を中心に、人の暮らしと心、自然が健やかになる『THE シガパーク』を目指してまいります。

Q…既存公園の老朽化の現状をどう把握し、今後対策をどのように進めるのか伺います。

A…3点目の老朽化の現状把握と今後の対策についてです。

4月以降、県内の『THE シガパーク』の公園を訪れ、県民が憩い楽しんでいる様子を目にするとともに、利用者や指定管理者からの様々な声をお聞きしたところです。

その中で、施設の全体的な老朽化、特にトイレや園内看板などに改善が必要と思われる箇所が多く見られました。

議員にご紹介いただきました「希望が丘文化公園」につきましましては、今年度より大規模な改修に取り組む予定でございます。

これらの現状を踏まえまして、『THE シガパークビジョン』の行動計画にも「レベルアップ」の取組をしっかりと位置づけ、計画的な改修や機能向上に取り組んでまいります。

Q…今後のシガパークの進め方について伺います。

A…4点目の今後のシガパークの進め方についてです。

『THE シガパーク』の公園には、それぞれ豊かな魅力と特徴があり、スケートボード場やパークPFI事業によるカフェの賑わい、子どもたちが存分に走り回れる広大な芝



QRコードを読み取り
議会内容をご覧下さい



生広場など、多くの滋賀の子どもたちが集い、これまで公園には訪れていただけなかった新しい利用者の方々に魅力を感じてもらえる公園づくりを進めているところです。

県民の皆様に楽しいでいただける公園を目指すことはもとより、県外の人からも「是非訪れたい」「また遊んでみたい」と思われる公園を目指してまいります。

また、本県には、『THE シガパーク』以外にも魅力的な公園が数多くあり、市町の公園にも声をかけるなど、一緒に取り組む仲間を増やし、琵琶湖を中心とした滋賀の公園の魅力向上につなげてまいります。

Q…県の森林部局が管理する「こんぜ天馬の森」を、『THE シガパーク』の仲間には是非加えて加えてもらいたいがどうか。

A…今、シガパークに入っている公園、県の公園といたしましては、都市公園とか自然公園がありますが、その他にも、いわゆる港湾緑地であるとか、ダム公園であるとか森林公園などがございます。今ご紹介いただきました「天馬の森」は、森林公園にあたります。

現在、所管している部局の皆様と調整し、議員要望にもとづきシガパークの仲間に入っていただくような調整をしております。

Q…『THE シガパーク』の取組に込める思いについて。

A…『THE シガパーク』ビジョンにかける思いということでございますが、コロナ禍において私自身は、悩みや苦しみを抱えた時に、公園で琵琶湖の雄大な景色や連なる山々を眺め気持ちが落ち着いた経験がございます。また、ソーシャルディスタンスの確保が呼びかけられる中、県としても呼びかける中、県民の皆様も公園などの身近なオープンスペースの価値を再認識されたのではないかと存じます。

「ともにいきる健康しが」の実現に向けて、公園は、県民の皆様「こころ」と「からだ」の健康を支え、暮らしを豊かにする大切な場所であると考えております。

「滋賀県はでっかい公園だ!」をキャッチコピーに、四季折々の風景がつぐむ豊かな自然、子どもが時間を忘れて熱中する遊び場など、公園の多様な個性をつなぎ、県全体で一体的に魅力向上を図るとともに、これら公園の魅力を次の世代にしっかりと引き継ぎたいと存じます。



こんぜ天馬の森にて(8/26)